

学校だより

しらかわ



飯豊町立添川小学校

2021. 12. 13

第16号

いきいき なかよく ほこりを持って

## 読書週間 読み聞かせへのご協力に感謝

今日まで、添川小では「読書週間」です。月曜日ごとに、PTA母親委員会とあ～すまいりーずの皆様が、朝の時間に読み聞かせをしてくださいました。いい本を選んで工夫しながら読み聞かせをしてくださり、温かいない時間が流れていました。皆様、ありがとうございました。

また、読書週間の間、朝は読書の時間になります。子ども達は集中して読書する時間になりました。

ところで、子ども達はいったいどんな本が好きなのだろうと思い、PTA事務局で毎月まとめてくださる「親子で読書運動～〇月分の本の紹介～」を去年と今年分、読み直してみました。そして、親子で読書に選ばれている回数が多い本をピックアップしてみました。次の本（シリーズ）が多かったようです。

『おしりたんてい』シリーズ（トル作・絵） 『かいけつゾロリ』シリーズ（原ゆたか）

『バムとケロ』シリーズ（島田ゆか） 『ぱくっ』 『あっぱれ！ぱくっ』等（せきゆうこ）

様々な図鑑（野鳥、昆虫、水生生物、和楽器等）

また、6年生が『北守将軍と三人兄弟の医者』（宮澤賢治）、『五ひきのヤモリ』（浜田廣介）等の担任からの「課題図書」を読み、5年生が『12歳からのマナー集』（多胡輝）『君たちはどう生きるか』（吉野源三郎）等を読んでいる子がいることも、特筆すべきと思いました。図鑑が好きな子もいいと思います。

全体的な傾向として、PTA親子で読書運動～令和2年度総まとめ～によると、読まれた本の種類は、絵本32冊、児童書35冊、知識の本5冊、小説4冊、図鑑3冊。これも、見事に傾向を表していると思います。全国的には「子どもの好きな本」ってどうなのか、ネット検索が多かったのは次の本です。

『おもしろい！進化のふしぎ ざんねんないきもの事典』（今泉忠明監修）

『ふしぎ駄菓屋 銭天堂』（廣嶋玲子作） 『おしりたんてい』シリーズ（トル作・絵）

『あるかしら書店』 『りんごかもしれない』（ヨシタケシンスケ）

『ぼくらの七日間戦争』（宗田理作） 『鬼滅の刃 しあわせの花』（吾峠呼世晴原作、矢島綾著）

なるほど、この時代のベストセラーなのだろうと思います。ぜひ、楽しく読んでほしいと思います。

ちなみに、私（校長）の子どもの頃の好きな本は、『星の王子さま』『十五少年漂流記』『ドリトル先生航海記』『岩石図鑑』、最近読んで好きな本は『博士の愛した数式』『君の膵臓をたべたい』『小説 君の名は』。

皆様は、いかがですか。家族で、自分の読書体験を話し合うのも、楽しいですね。



読み聞かせの様子から



集中した朝の読書

# 昭和地区農地・水の米野さん講話 お米の贈呈式

12月8日、昭和地区農地・水環境保全会の米野さんの講話と実習田で栽培したもち米の贈呈式が行われました。5・6年生が米野さんの講話をお聞きし、田んぼの先生である舩山さんと米野さんから贈呈していただきました。米野さんは山形県農業総合研究センターにお勤めのその道のプロ中のプロです。さくらんぼの栽培についてお話しいただきました。

今日の学習は、総合学習でもありキャリア講話でもあります。子どもたちは真剣なまなざしで聞いていました。

米野さん、舩山さん、昭和地区農地水環境保全会の皆様、今年もたいへんお世話になりました。誠にありがとうございました。



<ミニコラム> 子どもの心とことばを育てるために（その24）

## 「メタ認知」とは何か

メタ認知 (metacognition) という概念は、認知心理学の領域で生まれたものです。メタとは「高次の」という意味ですから直訳すれば、「(自分の) 認知自体の認知」。簡単にいえば、「自分を知ること」です。メタ認知能力が高い人ほど自分の特性や癖を正確に把握できるため、目標達成能力や課題解決能力が高いと言われています。

メタ認知の明確な定義は研究者によってマチマチではありますが、私なりに定義する メタ認知とは「自己を俯瞰的に捉え、自己について学ぶ機能」 のことです。

ポイントは2つあります。

ひとつはやはり自己の捉え方です。

自分の内面、つまり自分の思考パターンや行動パターンをはじめとする自分の脳の特徴や、自己変容の軌跡などに意識を向け、それらを俯瞰的に捉えることがメタ認知において絶対不可欠です。世間でもメタ認知についてさまざまな解釈が存在しますが、共通しているのは自分自身を対象化し、もうひとりの自分がそれを見ているような感覚で自分を捉えるということです。

しかし、自分を俯瞰視するだけではメタ認知の「スキル」としては物足りません。

それが2つ目のポイント。「自己について学ぶ」です。

自己と向き合い、そこで得た情報を脳の中の記憶痕跡としてしっかりと書き込んでいくことが、メタ認知の本質的な意義であり役割ではないかと思うのです。

メタ認知の定義に自己学習を含まないケースもありますが、教育現場にメタ認知スキルを導入していくのであれば、私は含むべきだと思います。(中略)

子どものメタ認知能力を高め、同時にウェルビーイングを実現する手軽な手段として私がおすすめするのが、「その日に起きた嬉しかったこと」を毎日子どもに尋ねることです。非常にシンプルですが、効果は抜群です。ポイントはできるだけ毎日やることです。もうひとつ重要なポイントは、聞き手は相手の言葉をそのまま受け止めてあげることです。

『最新の脳研究でわかった！ 自律する子の育て方』、工藤勇一・青砥瑞人著、SB新書

例えば、日記などを書き、それを書きっぱなしでなく時々読み返し、自分の思考パターンや行動パターンなど、自分なりの傾向を見つける。そんな人は、目標達成能力や課題解決能力が高いだろうと私は思います。

かつて、「ごんぎつね」を書いた新美南吉も日記にこう書いていました。「また今日も己を探す。」